

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 23 日現在

機関番号：34319

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02096

研究課題名(和文) 東アジアの女性アーティストに見る地域と歴史の境界をめぐる研究

研究課題名(英文) Study of the Historical and Regional Borderlines in the East Asian Women Artists

研究代表者

小勝 禮子 (KOKATSU, Reiko)

京都芸術大学・芸術学部・非常勤講師

研究者番号：80370865

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、アジア各国で活躍する近現代の女性アーティストの文献収集と本人の作品調査・聞き取り調査を重ねて、データを収集し、それをまとめたデータベースを作成し、世界中誰でも閲覧・利用できるウェブサイト「アジアの女性アーティスト：ジェンダー、歴史、境界」を作成することである(日英)。女性アーティストのデータベースの他、報告者のこれまでの研究業績と活動、研究分担者や協力者らとの共同研究の成果(論文のPDF等)、アートとジェンダーに関する文献などを総覧できるサイトとして、一般公開した。2021年3月時点の総登録者数77件(うちグループ4件)。https://asianw-art.com/

研究成果の学術的意義や社会的意義

アジアの女性アーティストの作品調査とまとめを通して、近現代東アジア圏における美術をジェンダーと「境界」という視点から捉え直した。アジア・女性・歴史のファクターが出会ったことで生まれる芸術の意味を、これまでの伝統的な男性中心の芸術史から解放し、記述し直すことを目指した。

歴史的には、第二次世界大戦後のアジア諸国の独立をめぐる戦争や社会体制の変化の中で生まれてきた女性の美術表現の相関関係、社会や美術界の中の境界(マ-ジナル)に位置する女性アーティスト間のネットワークの構築とエンパワーメントについての調査とジェンダー分析をおこなった。

研究成果の概要(英文)：One of the purposes of this research is to create the website “Asian Women Artists: Gender/History/Border,” which is available to anyone, anywhere (in Japanese and English).

Via this website, we aim to compile a database on modern and contemporary women artists who are active in various Asian countries, through collecting literary works, investigating their visual works and conducting interviews with the respective artists. In addition to the database of women artists, this site provides a comprehensive overview of my past research achievements and activities; the results of my joint research with co-investigators and research collaborators (essays in formats such as PDF files); and literary works on art and gender. As of March 2021, a total of seventy-seven women artists (including four groups) are registered on this website. https://asianw-art.com/

研究分野：近現代美術史・ジェンダー論

キーワード：アジア現代美術 女性美術家 ジェンダー 歴史 境界 地域 アジア女性美術 身体・表現・メディア

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

報告者は2016年3月まで所属した栃木県立美術館の学芸員として、「揺れる女/揺らくイメー ジ フェミニズムの誕生から現代まで」(1997年)、「奔る女たち 女性画家の戦前・戦後 1930 - 1950年代」(2001年)、「前衛の女性 1950 - 1975」(2005年)(いずれも栃木県立美術館)のジェンダーの視点による3つの展覧会を開催し、19世紀以後の美術史の再検証と、戦前から戦後にいたる日本の女性画家の発掘と再評価に努めて来た。その後、2008 - 2010年度の科学研究費「20世紀の女性美術家と視覚表象の調査研究 アジアにおける戦争とディアスポラの記憶」(基盤研究(B)課題番号20310156)による共同研究の結果、韓国、中国、台湾、ベトナムなど初めて東アジアを中心とした現代女性アーティストの活動について広範な調査を行うことができ、その成果として「アジアをつなぐ 境界を生きる女たち展 1984 - 2012」展を福岡アジア美術館ほかと共同企画・開催した(福岡、沖縄、栃木、三重巡回、2012 - 2013)。

その後、2016年に栃木県立美術館を退職し、京都芸術大学(当時・京都造形芸術大学)をはじめ、いくつかの大学で非常勤講師を務めながら、美術史研究を続けていた。その中で、「アジアをつなぐ」展で出品した作家をはじめ、アジア女性美術家の調査研究の必要性を痛感し、データが一括して保存更新できるウェブサイトの構築を志した。これまで女性美術家の調査研究をともにしてきた北原恵氏(大阪大学教授)や金恵信氏(沖縄県立芸術大学教授)、由本みどり氏(ニュージャージー州立大学准教授)、ラウンチャイクン寿子氏(福岡アジア美術館学芸員)らに、研究分担や協力を依頼した。

## 2. 研究の目的

(1)本研究の目的は、近現代東アジア圏における美術をジェンダーと「境界」という視点から捉え直すことである。アジア・女性・歴史のファクターが出会ったことで生まれる芸術の意味を、これまでの伝統的な男性中心の美術史から解放し、記述し直すことを目標とする。

(2)歴史的考察:第二次世界大戦後のアジア諸国の独立をめぐる戦争や社会体制の変化の中で生まれてきた女性の美術表現の相関関係、社会や美術界の中の境界(マ・ジナル)に位置する女性アーティスト間のネットワークの構築とエンパワーメントについての調査とジェンダー分析を行う。

(3)現状分析と将来の展望:現代美術批評や市場において国際的な評価を受ける一部の女性アーティストとローカルな女性アーティストの対比的な作品研究、および「評価」の基準の問い直しも必要である。

## 3. 研究の方法

本研究の研究方法・計画は以下の3つの柱から成る。

(1)アジア各国で活躍する近現代の女性アーティストの文献収集と本人の作品調査・聞き取り調査。申請者のこれまでの調査結果に積み上げて、調査対象の拡大と深化(韓国、中国、シンガポール、沖縄など)を行なう。研究分担者、協力者と連携。

研究体制の構築とネットワーク形成、および基本文献収集 研究分担者の大学研究者、各美術館の学芸員、調査対象のアーティストらと主にメールにより連絡を取り、調査対象の女性アーティストや現地研究者によるネットワークを作成し、それを基に文献・資料を調査し、収集した。

(2)アジア各地で開催される国際展や美術館の現地調査を行なう。研究分担者、協力者と連携。各年度に海外調査、国内調査を行った。

(3)上記の作業に基づき、東アジアの女性作家・作品のデータ整理を行い、資料の電子化によるデータの共有と欧米のサイトとのリンクも含めたウェブ上での公開の準備作業を行う。研究分担者、研究協力者との調査結果の情報交換と研究会を毎年行い、最終年度にウェブサイトを構築し、公開する。

## 4. 研究成果

まず各年度ごとの調査研究の実践とその成果について概略し、最後に研究全体を通しての成果をまとめる。

### (1)初年度 平成29年度(2017年度)

研究体制の構築とネットワーク形成、および基本文献収集

国際展の事前データ調査・現地調査 国際展の調査

2018年に多く開催されるアジアの国際展の事前調査として、ヨーロッパで開催された大規模な国際美術展である、ドイツ、カッセルのドクメンタと、イタリアのヴェネツィア・ビエンナーレの調査を行なった(9月)。その中でのアジア女性作家の占める割合や作品の内容、評価のされ方などを分析・調査した。

また、アジアの国際展として、インドネシアのジャカルタとジョグジャカルタで開催されたビエンナーレ調査を行った(11月)。ジョグジャカルタでは、アーティストやキュレーターによるギャラリーやレジデンス施設、アーカイヴ施設など、市内に点在する複数のアートスペースを調査することができ、大きな収穫を得た。インドネシア調査以前に、東京で開催された東南アジアの現代美術展「サンシャワー」展(7-10月)のために来日した美術家やキュレーターと交流することができ、アジア調査のための人的ネットワークが開拓できた。

アジアの女性アーティストの作品・聞き取り調査

ジャカルタで女性美術家ヤヤ・スン氏のアトリエを訪問。作品調査や聞き取りを行った。沖縄在住の美術家として、阪田清子氏の個展（横浜）を調査し、聞き取り（9月）。また石川真生氏の個展（沖縄と埼玉）も調査し、聞き取りを行った（9月、2018年2月）。

#### 研究会の開催

研究協力者による研究会を開催（11月19日、場所・福岡アジア美術館、研究協力者：北原恵、ラワンチャイクン寿子、中尾智路、趙純恵、九州大学教授・後小路雅弘ほか）。アジア女性美術家に関する大学院生3名の研究発表。報告者や研究協力者が質疑応答に参加し、若手研究者のアジア女性美術研究を振興させ、次世代につなぐ機会を提供することができた。

### （2）2年度 平成30年度（2018年度）

研究体制の構築とネットワーク形成、および基本文献収集の継続

国際展の調査、女性アーティストの作品・聞き取り調査

韓国調査 メディア・シティ・ソウル（ソウル市立美術館）、光州ビエンナーレ、釜山ビエンナーレの国際展調査。ソウル市、および水原市で開催されたユン・ソクナム個展の調査。

台湾調査も行う予定であったが、報告者が学術協力したアジア女性写真アーティストによる企画展「愛について アジアン・コンテンポラリー」が東京都写真美術館で開催されたため、高雄の侯淑姿（ホウ・ルル・シュウズ）氏が来日し、情報交換することができた。ほかに出品作家の韓国、中国、在日韓国人の女性アーティストにもインタビューを行った。（10月）また台北ビエンナーレについては、研究協力者の北原恵氏が現地調査し、情報提供を受けた。

2015年開館のシンガポール・ナショナル・ギャラリー（近代美術）とシンガポール・ビエンナーレの調査を行う予定であったが、同ビエンナーレが2019年秋に延期されたため、調査も最終年度（2019年度）に延期した。

#### 研究会の開催

沖縄の女性とアートをテーマとした研究会を沖縄で開催（11月4日、場所・沖縄市坂田清子スタジオ、研究協力者：金恵信、北原恵、町田恵美ほか）。沖縄の女性アーティストの作品と活動、その特徴について、アーティスト4名、キュレーター3名の発表会を行い、報告者や研究協力者が質疑応答に参加して、沖縄という地域・歴史における女性と美術について問題点を洗い出し、考察を深める機会を提供できた。

### （3）3年度 令和1年度（2019年度）

研究体制の構築とネットワーク形成、および基本文献収集の継続

国際展の調査、女性アーティストの作品・聞き取り調査

シンガポール、バンコク調査 2018年度に実施予定だったシンガポール・ビエンナーレ調査を、同国際展の実施が2019年11月～20年3月に順延されたため、3年度に実施した。シンガポール・ナショナル・ギャラリー学芸員、堀川理沙氏の協力により、今年度より研究分担者をお願いした北原恵氏、金恵信氏とともに同館の常設展示作品を調査。同じ機会にバンコクも立ち寄り、LGBTQをテーマとした企画展覧会も調査した。（2020年2月）

韓国調査 忠南洪城郡ホンブク邑李応魯（イ・ウンノ）記念館で開催のジョン・ジョンヨブ個展を、研究分担者、北原恵氏とともに調査。またソウル市に近い京畿道美術館で開催の企画展も調査でき、それは韓国と台湾の共同企画による、両国の現代作家による移民をテーマにした展示であったため、台湾の作家についても合わせて調査できた。（9月）

残念ながら台湾調査は、日程と展覧会等のスケジュールの関係で今年度も実施できなかった。女性美術家の調査については、2019年8-10月に開催されたあいちトリエンナーレへの出品作品や、プレ企画として開催されたモニカ・メイヤーのワークショップなどで、海外出張せずとも国内で実施する機会が取れた。

#### 研究会の開催

これまでの研究調査を総括する研究会「女性アーティストを取り巻く諸相：多様性/生計/ギャラリスト」を大阪大学で開催（7月27日）。研究協力者の由本みどり氏をはじめ、中西美穂氏、稲垣智子氏による研究発表と討議を行った。アメリカ、ドイツという異なる地域で研究、作家活動をする由本、稲垣氏と、大阪という場のローカリティ、ギャラリスト、女性陶芸家などをテーマとする中西氏の発表は間口が広く、地域性をめぐって多様な議論が展開され、きわめて有意義であった。

女性アーティストの展覧会の開催、カタログの発行

報告者がキュレーターとして参加して、国内外の30～60代の女性アーティスト8人によるコレクティブ「エゴイメ・コレクティブ」を結成し、公募による企画展「都美コレクショングループ展2019」に応募して採用され、「彼女たちは叫ぶ、ささやく ヴァルネラブルな集合体」が世界を変える」展を東京都美術館で開催（6月）。展示のほか、会期中にイトー・タリ、松下誠子によるパフォーマンスも行った。同展を記録するカタログも刊行し、報告者が批評文を執筆した。

ウェブサイトの構築と公開

これまでの研究調査の成果をまとめて、ウェブサイト「アジアの女性アーティスト：ジェンダー、歴史、境界」を作成。データベースに女性アーティストの登録を開始した他、報告者のこれまでの研究業績と活動、研究分担者や協力者をはじめとした共同研究の成果（論文のPDF等）、アートとジェンダーに関する文献などを総覧できるサイトとして、一般公開した。（2020年3月）

しかしアジア女性美術家のためのウェブサイトの作成までは完了したが、そのうち、データベースとしての女性美術家の登録が、残念ながら30数人にとどまっていた。次年度に繰り越してさらに調査を続け、より一層充実したウェブサイトを構築することとした。具体的には次年度内に100人程度の女性アーティストを登録する予定とした。

アジア各地の女性美術家調査のうち、いまだ新規調査ができていない国、地域（台湾、中国、香港など）の調査も、繰り越した最終年度で可能な限り実施する予定とした。

#### （４）繰り越し４年度 令和２年度（2020年度）

前年度末に開設した研究調査の成果を総括するウェブサイト「アジアの女性アーティスト：ジェンダー、歴史、境界」（英文併記：Asian Women Artists:Gender/History/Border）の内容をさらに充実させた。国内外の女性アーティストに主にメールで連絡を取り、データベースへの登録を依頼して調査を進めた他、報告者のこれまでの研究業績と活動、および研究分担者や協力者をはじめとした共同研究の成果（論文のPDF等）、アートとジェンダーに関する文献一覧などのデータを随時更新した。2020年度を通して登録者数を増やし、2021年3月時点では、総登録者数77件（グループによる登録4件）に及んでいる。この調査・登録作業はその後も継続している。

2020年度は前年度までに実施できなかった台湾、中国の調査を実施する予定だったが、世界的に蔓延した新型コロナ・ウィルスの感染拡大により、海外調査を断念せざるを得なかった。しかしに挙げたように、報告者が新しく開設したウェブサイト「アジアの女性アーティスト：ジェンダー、歴史、境界」の登録のため、海外在住を含む日本やアジアの女性アーティストとメールやSNSを通じてコンタクトを取り、今年度だけで60人弱の女性アーティストの調査をし、その結果をデータベースに登録することができた。これは本研究による一定の成果である。

#### （５）研究全体の成果のまとめ

以上のように、研究の方法（１）「アジア各国で活躍する近現代の女性アーティストの文献収集と本人の作品調査・聞き取り調査」については、コロナ禍による延長4年度の海外出張や国内出張の実施不能という残念な事態はあったが、それまではほぼ予定通り実施できた。（２）「アジア各地で開催される国際展や美術館の現地調査」も（１）と同様に、4年目を覗いてはほぼ予定通り実施した。（３）「上記の作業に基づき、東アジアの女性作家・作品のデータ整理を行い、資料の電子化によるデータの共有と欧米のサイトとのリンクも含めたウェブ上での公開」については、予定通りアジア女性アーティストのデータベースとなるようなウェブサイトの構築と公開を実現した。欧米のサイトとのリンクも近い将来に実現する予定である。

最後にこれらの研究調査によって何が達成されたかと、今後の課題をまとめておく。

まず初めに、本研究の目的（１）に挙げた「近現代東アジア圏における美術をジェンダーと「境界」という視点から捉え直すこと」については、さまざまな国や地域で活動する女性アーティストの調査により、実際に生まれた国から移動して、あるいは母国と別の国を行き来しながら、アーティストとして活動するアーティストの存在を調査することにより、何が彼女たちを移住に向かわせたのか、女性というジェンダーはその決断にどのように関わったのかなどを考察するための、様々な事例を収集することができた。

目的（２）「歴史的考察：社会や美術界の中の境界（マ - ジナル）に位置する女性アーティスト間のネットワークの構築とエンパワメントについての調査とジェンダー分析」については、近年アーティスト同士のコレクティブと呼ばれる共同体が作られ、特に若い世代の女性アーティストたちがフェミニズムやジェンダーの問題意識を共有しながら、自分たちの活動を盛り上げ、やりやすくするために、個々人の活動を維持しながら緩い連帯を築いていく傾向を調べることができた。その中で、報告者も関わった「エゴイメ・コレクティブ」は、30代から60代という世代と居住地、国籍（ヨーロッパと日本）を越えて集まった珍しい集合体であった。こうした女性コレクティブの今後の活動の可能性を引き続き注視していきたい。美術大学の留学生などを通じて、若い世代の美術家は中国や韓国などのアジアの女性美術家と交流する機会も増え、歴史的にも視野を広げている。

目的（３）「現状分析と将来の展望：現代美術批評や市場において国際的な評価を受ける一部の女性アーティストとローカルな女性アーティストの対比的な作品研究、および「評価」の基準の問い直し」については、世界的に第4波フェミニズムとも称される現在の状況の中で、近現代の女性アーティストの発掘とも言える展覧会が国内外で相次いでいる。2019年の「あいちトリエンナーレ」において、参加作家の男女比率を半々にするという方針が掲げられ、実現されたのは画期的であった。しかし報告者の調査によれば、「あいちトリエンナーレ」で海外の女性美術家は30代が6人、40代以上が13人であったのに対し、日本の女性美術家はほとんどが20代～30代以下（16人、不明1人）という、著しい年齢の不均衡があったことにも留意したい。日本では相変わらず若い女性が注目され、40代以降の中老年世代は一部の有名作家の例外を除いて発表機会が極めて限定されている。報告者はこうした国際展や美術館の企画展において中老年以降の女性が阻害されている現状について、エゴイメ・コレクティブの展覧会に際してカタログのエッセイで問題点を指摘した（「彼女たちの叫びとささやき - ヴァルネラブルな集合体は世界

を変えたか？」2019 年刊、ウェブサイト「アジアの女性アーティスト：ジェンダー、歴史、境界」にも PDF を掲載）。

今後の課題として、この女性美術家と年齢の問題に焦点を絞って、引き続き調査やインタビューを継続し、その成果を論文や講演などで公開して行きたい。その目的で、2020 - 22 年度科研費基盤研究（C）「アジアの女性美術家のライフコースに見る芸術実践について」において、すでに研究を継続している。本科研より継承して、ウェブサイト「アジアの女性アーティスト：ジェンダー、歴史、境界」のデータベースへの登録作業も、引き続き進めて行く予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計39件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 小勝禮子	4. 巻 No.44
2. 論文標題 無音のカタストロフー「地球 爆」展を見て	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 REAR	6. 最初と最後の頁 204-205
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小勝禮子	4. 巻 -
2. 論文標題 アートとジェンダーをめぐる旅 第1回 イトー・ターリ 生きる限りの身体表現	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 しんぶん赤旗	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小勝禮子	4. 巻 -
2. 論文標題 アートとジェンダーをめぐる旅 第2回 岸本清子 女性による社会変革求め	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 しんぶん赤旗	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小勝禮子	4. 巻 -
2. 論文標題 アートとジェンダーをめぐる旅 第3回 山沢栄子 女性写真家のバイオニア	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 しんぶん赤旗	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小勝禮子	4. 巻 -
2. 論文標題 アートとジェンダーをめぐる旅 第4回 長島有里枝 男性社会の偏見打ち破る	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 しんぶん赤旗	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小勝禮子	4. 巻 vol.91
2. 論文標題 NATIONAL GEOGRAPHIC 2019年11月号 - まるごと一冊女性たちの世紀 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 MOVING	6. 最初と最後の頁 11 - 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小勝禮子	4. 巻 -
2. 論文標題 下向恵子氏の芸術 人もまた自然界の一部として存在すること	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 下向恵子作品集 MYTHOS - 古事記より	6. 最初と最後の頁 36-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kokatsu Reiko	4. 巻 -
2. 論文標題 The Art of Shimomukai Keiko -- Humanity Also Exists as a Part of the Natural World	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 下向恵子作品集 MYTHOS - 古事記より	6. 最初と最後の頁 37-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kokatsu Reiko	4. 巻 -
2. 論文標題 Postwar "Avant-Garde" Art Movements and Women Artists, 1950s-60s	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Art Platform Japan <a href="https://artplatform.go.jp/resources/texts/202003">https://artplatform.go.jp/resources/texts/202003</a>	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kitahara Megumi	4. 巻 6
2. 論文標題 Transcending Borders in the Work of Fumie Taniguchi (1910 - 2001) : Japanese women painters living in Japan/USA	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asian Diasporic Visual Cultures and the Americas	6. 最初と最後の頁 92-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/23523085-00601006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 北原恵	4. 巻 72
2. 論文標題 天皇制	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美術手帖	6. 最初と最後の頁 108-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北原恵	4. 巻 90
2. 論文標題 「高橋健太郎の「A Red Hat 赤い帽子」展 - 治安維持法下の「生活図画事件」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ビープルズ・プラン	6. 最初と最後の頁 170-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 北原恵	4. 巻 91
2. 論文標題 「美術界のハラスメントとフェミニストの連動 - 「ゲリラ・ガールズ展」(岡山)と「カナリアがさえずりを止めるとき展」(広島)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ピープルズ・プラン	6. 最初と最後の頁 177-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北原恵	4. 巻 54
2. 論文標題 新井光子(八島光)研究(1) - 昭和初期、プロレタリア美術運動に参加した女性画家	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 待兼山論叢	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金恵信	4. 巻 -
2. 論文標題 香川亮彩墨画展:多数の視点表現、「彩り」添えた奥深さ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 琉球新報	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金恵信	4. 巻 -
2. 論文標題 美術月評 8月	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 琉球新報	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金恵信	4. 巻 -
2. 論文標題 美術月報 11月	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 琉球新報	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金恵信	4. 巻 -
2. 論文標題 「阪田清子 ゆきかよう舟」展、記憶を漕ぐ言葉の舟	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 沖縄タイムス	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金恵信	4. 巻 -
2. 論文標題 美術月報 2月	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 琉球新報	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金恵信	4. 巻 -
2. 論文標題 ソン・ヒョンスクのブラッシュストローク、故郷と異郷を往来するしぐさの痕跡 (韓国語)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代美術フォーラム:かれらもいた:韓国現代美術史を作った女性たち (韓国語) <a href="http://www.daljin.com/?WS=33&amp;CNO=388">http://www.daljin.com/?WS=33&amp;CNO=388</a>	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小勝禮子	4. 巻 -
2. 論文標題 「指先の花」が舞う「春の嵐」、「澤登恭子 春の嵐」展	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Operation Table、 <a href="http://operation-table.com/sawa.html">http://operation-table.com/sawa.html</a>	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小勝禮子	4. 巻 No.122
2. 論文標題 私が選ぶ平成のこの1点 山城知佳子「土の人」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『アートコレクターズ』	6. 最初と最後の頁 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小勝禮子	4. 巻 No.633
2. 論文標題 赤松俊子《解放され行く人間性》- 女性画家が描く裸婦像	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『現代の眼』	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小勝禮子	4. 巻 no.99
2. 論文標題 「彼女たちは叫ぶ、ささやく ヴァルネラブルな集合体为世界を変える」by エゴイメ・コレクティブ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『女たちの21世紀』	6. 最初と最後の頁 52-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小勝禮子	4. 巻 -
2. 論文標題 彼女たちの叫びとささやき ヴァルネラブルな集合体は世界を変えたか？	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『彼女たちは叫ぶ、ささやく ヴァルネラブルな集合体世界を変える』展カタログ	6. 最初と最後の頁 2-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kokatsu Reiko	4. 巻 -
2. 論文標題 The Shouts and Murmurs of Women - Did the Vulnerable Collective Change the World ?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Shouts and Murmurs of Women - the Vulnerable Collective Will Change the World(Exh.Cat.)	6. 最初と最後の頁 15-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Megumi Kitahara	4. 巻 vol.VIII No.5
2. 論文標題 Between Tradition and Modernity: Tracing the Artistic Career of Taniguchi Fumie	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Register, Spencer Museum of Art, The University of Kansas	6. 最初と最後の頁 40-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 北原恵	4. 巻 85号
2. 論文標題 「小林喜巳子の版画：「彫刻刀で刻む社会と暮らし」展から」(Culture Review アート・アクティヴィズム(連載90))	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『ピープルズ・プラン』 ピープルズ・プラン研究所	6. 最初と最後の頁 164 - 167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北原恵	4. 巻 87号
2. 論文標題 「百島アートプロジェクト「百代の過客」 報告記」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『ピープルズ・プラン』 ピープルズ・プラン研究所	6. 最初と最後の頁 136 - 140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北原恵	4. 巻 784 - 794
2. 論文標題 「国境を越えるー女とアジア」第1 - 11回	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『We Learn』 日本女性学習財団	6. 最初と最後の頁 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金恵信	4. 巻 -
2. 論文標題 時代を描く / 書く「書体」としての木版画 「闇に刻む光 アジアの木版画運動1930s - 2010s」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『ポピュリズムとアート』フェリス女学院大学学内研究支援研究会報告論集	6. 最初と最後の頁 131-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金恵信	4. 巻 -
2. 論文標題 アートを通じ、「平和」探求 マブニ・ピースプロジェクト沖縄2019総括	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『沖縄タイムス』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金恵信	4. 巻 -
2. 論文標題 息する文字のかたち-タマナハマキ個展	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『沖縄タイムス』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金恵信	4. 巻 -
2. 論文標題 美術月評 4回	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『琉球新報』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小勝禮子	4. 巻 -
2. 論文標題 アジアの女性アーティスト - 先駆者から現在まで	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 「愛について アジアン・コンテンポラリー」展図録、東京都写真美術館	6. 最初と最後の頁 18-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kokatsu Reiko	4. 巻 -
2. 論文標題 Asian Women Artists—From the Pioneers to the Present Day	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 I know something about love, asian contemporary photography(Exh.cat.), Tokyo Photographic Art Museum	6. 最初と最後の頁 178-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小勝禮子	4. 巻 -
2. 論文標題 女性美術家の作品は美術館に収蔵され、展示されているか？ 欧米からアジアまで	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 リレーコラム2018 #04、京都国際舞台芸術祭KYOTO EXPERIMENT、 <a href="https://kyoto-ex.jp/home/features/essay_series_04/">https://kyoto-ex.jp/home/features/essay_series_04/</a>	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Reiko Kokatsu	4. 巻 -
2. 論文標題 Are Women Artists Represented in European, American, or Asian Art Museum Collections and Exhibitions?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Essay Series 2018 #04, KYOTO EXPERIMENT, <a href="https://kyoto-ex.jp/home/features/essay_series_04/">https://kyoto-ex.jp/home/features/essay_series_04/</a>	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小勝禮子	4. 巻 1
2. 論文標題 日本の女性美術家たちー活動と評価の歴史	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 科研報告書 特集：谷口富美枝研究ー論文・資料集	6. 最初と最後の頁 59-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件(うち招待講演 9件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 金恵信
2. 発表標題 朝鮮王朝の布と刺繍
3. 学会等名 沖縄県立芸術大学大学院 比較芸術学専攻アート・レクチャー(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小勝禮子
2. 発表標題 「山沢栄子の生きた時代 近代女性美術家の創生期・戦前から戦後の前衛、現代の女性写真家まで」
3. 学会等名 西宮市大谷記念美術館（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小勝禮子
2. 発表標題 「日本の美術・美術展におけるジェンダー視点の導入について 1990年代から現在まで」
3. 学会等名 東京大学   社会を指向する芸術のためのアートマネジメント育成事業（AMSEA）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小勝禮子
2. 発表標題 「岸本清子と1960～80年代の女性美術家たち」
3. 学会等名 愛知県美術館（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小勝禮子
2. 発表標題 「ジェンダーはアートに不可欠の視点 日本のアートとジェンダーをめぐる変遷Gender as Indispensable Perspective in Art: Shifting Discourses on Art and Gender in Japan」
3. 学会等名 「文化庁現代アートワークショップ：トランス/ナショナル：グローバル化以降の現代美術を語る」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 小勝禮子
2. 発表標題 「日本の美術・美術展におけるジェンダー視点の導入について」
3. 学会等名 宥学会・遊学塾（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北原恵
2. 発表標題 対話「表現の不自由を越えて」
3. 学会等名 ART BASE 百島（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北原恵
2. 発表標題 「あいちトリエンナーレ2019を振り返って 出品作品から考える現代社会」
3. 学会等名 日本地方自治研究学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北原恵
2. 発表標題 「イルクーツク&サハリン調査その後：美術」
3. 学会等名 「難民」の時代とその表現」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金恵信
2. 発表標題 「王朝の家 ソウル古宮物語」
3. 学会等名 沖縄県立芸術大学比較芸術学専攻アートレクチャー（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 美学会 編(小勝禮子、192名の共著者)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版株式会社	5. 総ページ数 736
3. 書名 美学の事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	北原 恵 (KITAHARA Megumi)  (30340904)	大阪大学・文学研究科・教授  (14401)	
研究分担者	金 恵信 (KIM Hyeshin)  (30448948)	沖縄県立芸術大学・美術工芸学部・教授  (28001)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	由本 みどり (YOSHIMOTO Midori)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ラワンチャイクン 寿子  (RAWANCHAIKUL Toshiko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関